



Relay™ G50/G90 Bodypack

取扱説明書

アソバンス・ガイドは www.line6.jp/manuals をご覧ください



注 意

感電の恐れあり
キャビネットをあけるな



警告：火災や感電の原因になりますので分解・改造は厳禁。修理・調整は販売店にご依頼ください。

警告：火災や感電の原因になりますので本機を雨や水がかかるところには設置しないでください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- 1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認して下さい。
- 2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか又は電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談して下さい。
- 3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせ下さい。連絡先：

2.4 XX 8



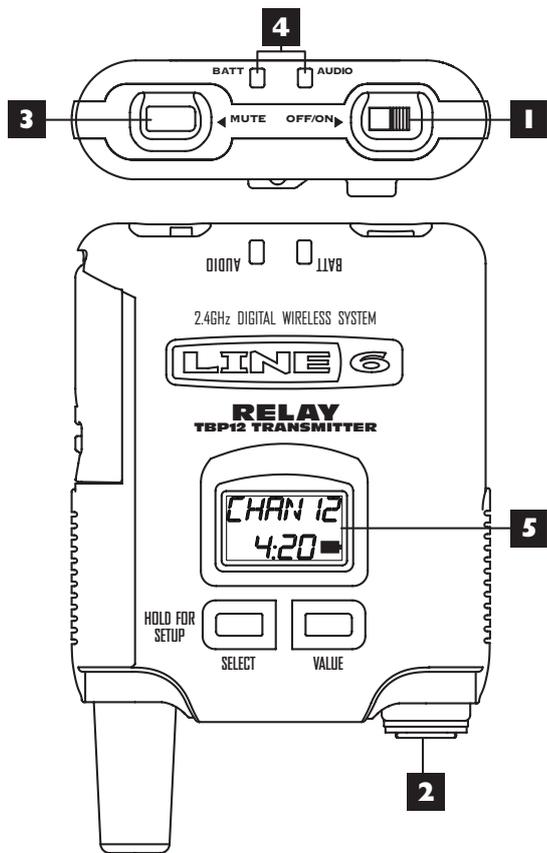
これらの安全上の注意事項を良くお読みください。これらの取扱説明書は大切に保管してください。



TBP12を使用する前に、以下に記載される操作に関する指示、及び安全上の注意事項で該当する項目をよく読んでください。

1. TBP12の取扱説明書に記載されている警告は全て守ってください。
2. TBP12の取扱説明書に書かれている以外の点検、修理、部品交換等はしないでください。本機が次のような状態で損傷した場合には修理が必要です：
 - ・ 本機の内部に液体が入ったり、異物が入ったとき
 - ・ 本機を雨天や湿度の高い場所で使用したとき
 - ・ 本機が正常に作動しなかったり、性能が著しく劣化したとき
 - ・ 本機が落下したり、外装が損傷したとき
3. 暖房機器や発熱する機器の近くに設置しないでください。
4. 本機に異物や液体が入らないように十分に注意してください。水に濡れる恐れのある場所、湿度の高い場所での使用や設置はしないでください。
5. 機器のケーブルを踏まないでください。ケーブルが挟まれたり曲がると損傷する恐れがありますので、ケーブルの上に物を置かないでください。特にケーブルの差し込み部分と本機に接続する先端部の取り扱いには、細心の注意を払ってください。
6. 電池の消耗を押さえるためにも、長時間使用しない場合はトランスミッターのスイッチをオフに切ってください。
7. 汚れがひどい時には、水気を強く絞った布で拭いてください。
8. 弊社により指定された付属品／アクセサリーのみを使ってください。
9. 大音量で長時間使用すると、難聴や聴力障害を起こすことがあります。常に安全な音量で使用することを心がけてください。

基本操作



1. OFF/ONスイッチ - スイッチをスライドさせてトランスミッターの電源をオン/オフします。

2. 入力 - ここに楽器を接続します。

3. MUTE - オーディオ信号のミュート、ミュート解除を行うには、このボタンを押します。

4. BATT LED - 青 LED点灯= 高レベル、赤 LED点灯= 低レベル、赤 LED点滅= 残量わずか/乾電池を交換してください！

AUDIO LED - 緑 LED点灯= オーディオ信号入力あり

5. LCD 画面 - いずれかのボタンが押されると、LCD **バックライト**が直ちに点灯します。メインモードでは、以下のイラストのようなディスプレイが表示されます。

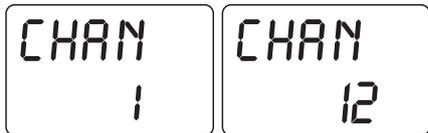


TBP12の送信をどのチャンネルに設定してあるかによって、**CHAN 1~CHAN 14**が上部に表示されます。トランスミッターがミュートされている場合のみ、**MUTE**アイコンが表示されます。**POWER SAVE**は、RFパワーモードが**LO**に設定されている場合にのみ点灯します。**ロックアイコン**は、トランスミッターがロックされている場合にのみ点灯します。ロックされている場合、電源をオフに切ることはできず、またエディットすることもできません。LCD の下部に表示される数字は、現在のパワーレベルによる電池の動作時間の残量を時間と分で表示しています。残り時間は20分単位で更新されます。**注意:** 操作開始直後の数分間は、正しい電池のデータが表示されないことがあります。電池の寿命が1時間以上ある場合は、**電池**アイコンが点灯します。電池の寿命が1時間を切ると、アイコンは点滅し始めます。

重要: Relay G50レシーバーへ接続した場合は1-12チャンネルを利用できません。このガイド内に1-14チャンネルと記載されている場合は、Relay G90システムを指しています。

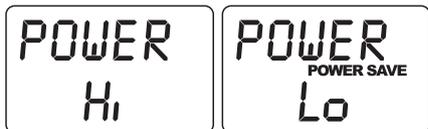
LCDセットアップ・ページ

セットアップ・ページ 1 - チャンネルの選択



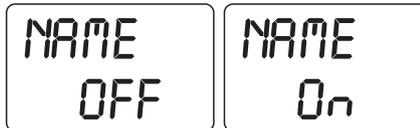
TBP12からレシーバーへの送信を正しく行うためには、両方の機器を同じチャンネルに設定する必要があります。TBP12から送信するチャンネルを変更する場合は、**SELECT**ボタンを2秒間押してセットアップ・ページ1に入ります。**VALUE**ボタンを短く押して、**CHAN1~14**の中から選択します。選択したチャンネル番号が、1から14までの数字で画面右側に表示されます。送信チャンネルの変更は、**SELECT**ボタンを2秒間押したままにする(セットアップ・モードを抜ける)か、15秒間どのボタンも押さずに(セットアップ・ページのタイムアウト)、メイン・ページに戻った段階で有効になります。

セットアップ・ページ 2 - POWER セットアップ



TBP12には、**Hi**(最高のパフォーマンス)または**Lo**(バッテリー持続時間の延長)の、2種類のパワー・モードが用意されています。Hiは、最高の到達範囲を実現したい場合、またRF環境が悪い場合に適しています。Loは、バッテリーの持続時間を伸ばしたい場合や、シグナルの到達域を制限したい場合に最適です。セットアップ・ページ1から、**SELECT**ボタンを一回押してセットアップ・ページ2へアクセスします。パワー・モードのHiとLoを切り替えるには、**VALUE**ボタンを押します。初期設定は、**Hi**に設定されています。

セットアップ・ページ 3 - ネーム表示



セットアップ・ページ2から、**SELECT**ボタンを一回押してセットアップ・ページ3へアクセスします。ディスプレイの右側に名称を表示するかどうかのOnとOFFは、**VALUE**ボタンを短く押すことで切り替えられます。このパラメーターでメイン・ページにチャンネル番号(**NAME OFF**)を表示する、またはカスタム・ネーム(**NAME On**)を表示するかを決定します。初期設定は、**OFF**です。

セットアップ・ページ 4 - セット・ネーム

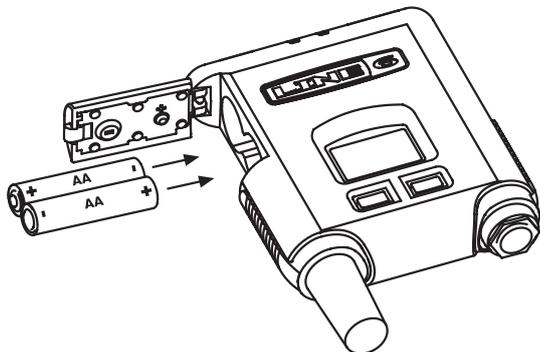


セットアップ・ページ3が **NAME On**に設定されている場合、LCDメイン・ページにはTBP12と表示されます。このネームを最大6文字(アルファベット、数字、スペースまたはハイフン)でどんなネームにも変更できます。

セットアップ・ページ4は、NAMEが**On**に設定されている場合にのみ表示されます。セットアップ・ページ3から、**SELECT**ボタンを一回押してセットアップ・ページ4へアクセスします。Nameが**OFF**に設定されている場合、セットアップ・ページ4で**SELECT**ボタンを押すと、画面はメイン・モードの表示に戻ります。

VALUEボタンを押すと、現在点滅している文字桁の表示が次々と替わります。**SELECT**を押して文字を決定し、6つの文字スペース範囲内の次のスペースへ移動します。この手順を繰り返してTBP12のネームをカスタマイズします。最後の桁を選択し終えたら、**SELECT**ボタンを押してメイン・ページに戻ります。

電池の装着/取り外し



本体の横にある乾電池カバーを開けます。乾電池カバーの内側に正しい乾電池の向きが表示されています。

ロックアウト・モード

TBP12は、工場出荷時にはロックされていない状態になっています。これは最初のセットアップに必要な調整を、ユーザー自身で行えるようにするためです。

セッティングが終わったら、**VALUE**ボタンと**SELECT**ボタンを同時に2秒間長押しします。これにより本機はロックアウト・モードに入るため、偶然にミュートしてしまったり、設定を変更したり、TBP12を切ってしまう等の事故からフロントパネルを保護できます。この場合、LCDの左下の角に**ロック・アイコン**が表示されます。ロック・モードで**POWER**スイッチ、**SETUP**ボタンのいずれかを押すと、LCDに**LOCKED**が点滅表示されます。

本機がロックアウト・モードに設定されているときにTBP12の電源を切る場合は、**VALUE**ボタンと**SELECT**ボタンを2秒間同時に長押しします。ロックを解除してから、**POWER**スイッチを2秒間長押しします。

トラブルシューティング

問題点	原因	解決策
音が出ない	システムの電源が入っていない、ソース側の問題、チャンネルの選択に誤りがある、電池切れ	電源 信号の送信源 (TBP12が使用中であることをレシーバーが示しているか確認してください)、ケーブルまたはRFの確認
音が途切れる、または音が歪む	ソース側の問題、接続に誤りがある、複数のトランスミッターが1つの同じチャンネルに設定されている、トランスミッターが範囲を外れた、送信の途中に金属の壁がある、現場に正体不明のRFソースがある、チャンネル変更を行うために Lockモードを解除したためレシーバー側で一時的なシングル・ミュートが発生	信号の送信源 (TBP12が使用中であることをレシーバーが示しているか確認してください)、ケーブルまたは RF、Lockモードの確認
範囲不足	アンテナの接続が正しく行われていない、または接続されていない、複数のトランスミッターが同一のチャンネルに設定されている、POWER セッティングが [Lo] に設定されている、現場に正体不明のRFソースがある	RF、POWER セッティングを [Hi] に設定する、アンテナの位置を変える

電源

TPB12とレシーバーに正しく電源供給されていること確認してください。トランスミッター側の電池の残量表示を確認し、必要であれば電池を交換してください。電池の寿命を示すインジケータは、アルカリ乾電池用に最適化されていますが、単三電池であればどれでも使用する事ができます。但し、電池の寿命は異なります。

ケーブル

端子、ケーブルが正しい状態であることを確認してください。

RF1からRF2モードの切り替え

V2またはそれ以降のファームウェアのTBP12は最新のデジタル・ワイヤレス伝送方式を採用しており、バージョン2ソフトウェアのRF2モードで使用されている Relay G30、Relay G50、Relay G90、XD-V35、XD-V55、XD-V75モデルのチャンネルと互換性があります。独立したチャンネルで使用していれば、同時に最大14台まで、同じ場所上で上記のモデルを同時に複数使用すること

ができます。

アップデートされたRelay G50およびG90は、前世代のLine 6ワイヤレス製品(XD-V30、XD-V70、および現在RF1モードと呼ばれるバージョン2以前のファームウェアのRelayTM G30、RelayTM G50、RelayTM G90)からの送信を受信することが可能です。しかし各システムのチャンネル周波数に互換性がないため、同じ場所でRF1およびRF2モードを混ぜて使用することは推奨されません。

RF1モードで動作させている機器を含むセットアップへ、V2以降のファームウェアを搭載したTBP12トランスミッターを追加する場合、従来のレシーバーでトランスミッターを使う場合は、V2トランスミッターがRF1モードで動作するよう設定することができます。TBP12トランスミッターをRF1モードにするには、Setupモードで使用チャンネルを表示し、SELECTボタンを押し続けながら、THH12の場合はON/MUTEボタン、TBP12の場合はVALUEボタンを一度押し離します。ディスプレイにはRF1またはRF2の文字が短く表示され、古いモード、新しいモードのどちらになっているかを示します。この設定は電源オフ後も維持され、また電源投入時には同様の表示 (RF1またはRF2) がディスプレイされます。

